

様々なリスク存在下における家庭および地域のリスクマネジメントに関する研究

岐阜大学 葦島 綾
 岐阜大学大学院 学生会員 山崎祐輔
 岐阜大学 正会員 高木朗義

1. はじめに

近年、自然災害に対する自助と共助の必要性が叫ばれている。一方、子供や高齢者を狙った犯罪や交通事故など多くのリスクが顕在化してきている。その中で、家庭では限られた時間と財源の中で様々なリスク対策を行っている。したがって、家庭におけるリスクマネジメントは、自主防災だけではなく、マルチリスクに対して検討する必要がある。また、阪神・淡路大震災の際、神戸市で救出救助に当たった人の約6割は近所の人であり、災害時における地域住民の協力体制を確立しておくことは大変重要である。したがって、自助だけではなく共助を踏まえて地域防災システムを検討する必要がある。

そこで本研究では、家庭や地域で行われている防災・防犯に関する意識や行動を調査した上で、リスクマネジメントの観点から分析し、自助・共助に対する促進策について検討することを目的とする。

2. 家庭と地域におけるリスクとその対策

本研究では、家庭と地域の面から防災と防犯に対する分析を行う。発生確率の低い自然災害と身近な犯罪対策を結びつけて考えることにより、防犯対策で行う普段のリスク対策に防災の観点を含めることができる一方、災害時に大いに力を発揮することが期待できる。

また、家庭では財源や時間が限られているが、これは地域の人々の協力により補うことが可能である。普段のリスク対策により、身近な犯罪対策で地域の結び付きを強めておくということは、自然災害といういざと言うときに、例えば近所の助け合いにより取り残される人を減らすことができると考えられる。

様々な文献資料¹⁾から家庭や地域における主なリスクと対策方法を抽出し、表1の3項目に分類した。分類方法は、地震・洪水といった自然災害によって被害を受ける自然災害リスク、他人によって被害を受ける犯罪リスク、自分及び家族の命、身体に関わる健康リスクとした。健康リスクは、他の自然災害・犯罪リスクと比較するために用いるが、本研究では分析の対象外とする。リスク対策は、家庭と地域で行わなければならない重要項目を文献資料¹⁾より抽出した。これらをリスクコントロール

表1 家庭や地域におけるリスクと主な対策

自然災害	リスク	・自然災害（地震・洪水等）が起きて家屋倒壊や家族が怪我、死亡してしまうかもしれない
	対策	・防災グッズの用意，非常食の確保，家具の固定を行う ・避難場所，連絡方法などの話し合いを行う ・地域コミュニティで要援護者の支援を行う ・自然災害保険に加入する
犯罪	リスク	・住居侵入により金品が盗まれるかもしれない ・子供が誘拐されたりわいせつ行為を受けたりするかもしれない ・高齢者が悪徳商法により騙されるかもしれない
	対策	・防犯設備機器（補助錠など）を設置する ・防犯ブザーを持たせる，知らない人についていけない等子供に教える ・地域で巡回パトロールを行う
健康	リスク	・家族が病気，怪我または死亡してしまうかもしれない ・交通事故に遭うかもしれない
	対策	・生命保険や損害保険に加入する ・食生活に気をつける



図1 損害保険の種目別構成比

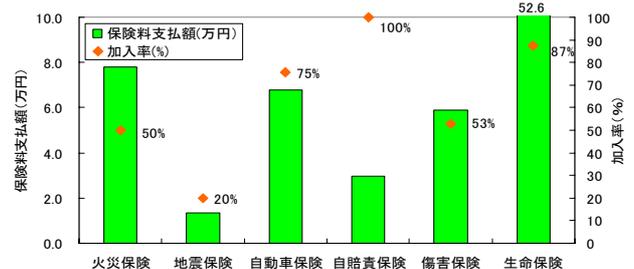


図2 加入世帯当たりの年間保険料支払額と加入率 (リスクの回避・軽減)とリスクファイナンス(リスクの移転・保有)から成るリスクマネジメントの概念に当てはめて分析する。

3. 家庭におけるリスクファイナンス

家庭のリスクを移転するために保険が使われている。各家庭が損害保険として支払いをしている保険料の保険項目別構成比を図1に示す。損害保険の中で大きな支払いを占めている自動車・自賠責・火災・地震・傷害の5項目と生命保険について、加入世帯あたりの年間保険料支払額と加入率を図2に示す。図2より加入世帯あたり

の年間保険料支払額と加入率を掛け合わせた生命・損害保険への保険料は、一世帯当たり年間約 61 万円と算出された。このうち、自然災害保険である火災保険料と地震保険料の合計は年間約 4 万円となり、全体の約 7%しか満たない。リスクファイナンスの面から見ると、家庭では自然災害への不安感が小さいと言える。

4. 地域防災コミュニティ計画

岐阜市では平成 18 年 8 月に地域防災コミュニティ計画の策定を市民に要請した。これは、従来の防災計画では連絡体制、情報伝達体制が未熟であったり、災害時要援護者対策がなされてなかったりと不十分な面が見られたためである。そこで、それぞれの地域によって様々なリスクがあることを踏まえ、地域の特色を活かした防災計画をその地域住民の手で作ることとなった。その中で、地域防災コミュニティ計画に特色のある 4 地域について、その特色と防災マップの形態を表 2 に整理した。この 4 地域に共通して重要視されている項目は、災害時要援護者支援と防災意識の向上である。災害時に円滑に対応できるよう平常時での体制作りや地域内住民相互のコミュニケーションを助成することを明確化している。

さらに、三輪南地域と鏡島地域では、「自らの命は自ら守り、自分たちの町は自分たちで守る」という理念を掲げている。目標として「日頃から近隣の人々との交流を深めること」を掲げており、地域コミュニティ強化に焦点を当てている。

今後の課題として、この計画を実践していくことが挙げられる。また、その第一歩として全世帯に配布した防災マップを住民が把握しているか確認を行うなど、活用方法等を住民に周知するためのリスクコミュニケーションが重要である。

5. 戦略的アンケートによるリスクコミュニケーション

4. で挙げた今後の課題を解決していくために、岐阜市日置江地区を対象としてリスクコミュニケーションを実践する。具体的には、これまでに防災訓練および反省会への参加、DIG 訓練の支援を行った。次の展開として、個々の住民に自助・共助の確認やその重要性を周知するために戦略的アンケート調査を実践する。

既存研究²⁾における 15 項目の防災についての自助・共助に、防犯に関する自助・共助の項目を付加して防災・防犯についてのリスクコミュニケーションを行う。アンケート項目については、どれ程の意識を持って行動しているかに加えて、支払意思額を把握するための、防災・

表 2 地域防災コミュニティ計画のまとめ

日置江	日置江地域防災コミュニティ計画 特色：地域防災コミュニティ計画策定委員会を設立して計画書を策定。アクションプログラムの策定 日置江防災マップ：一時避難場所、非常持ち出し品一覧、緊急連絡先等記載
京町	京町地区自主防災態勢指針 特色：災害時要援護者の対策（ご近所見守りチームの編成活動等）なども指針の中で明確化し災害時要援護者への取り組みを強化 防災マップ：一時退避場所・避難所マップ、風・火・救出マップ、防災マニュアル（地震編、風・雨・水害編）の 4 種類
三輪南	ざ・防災 三輪南自治会連合会防災マニュアル 特色：早期余震計画に取り組みの地域の災害情報伝達体制の強化 三輪地域防災マップ：NO.1～NO.8 まで地区ごと作成
鏡島	防災 かがしま 特色：全世帯へのアンケート調査を実施し、その内容に即した防災計画を策定 鏡島ヒヤリハットバリアフリーマップ：避難場所、コンビニに加えて防犯の注意場所、交通事故多発点を記載

表 3 アンケート調査票（一部抜粋）

以下の質問に対してあなたが行っている度合いをお答えください
1. 一人で遊んでいる子供に声をかけるようにしていますか？ a. 必ずしている b. 時々している c. まったくしていない
2. 不審な人がいたら確かめるようにしていますか？ a. 必ずしている b. 時々している c. まったくしていない
3. 登下校時の防犯安全パトロールに参加していますか？ a. 必ずしている b. 時々している c. まったくしていない

防犯対策費用および時間に関する設問を設けた。また、普段の交友関係について問う設問も加え、地域活動への参加状況を調査するとともに、その必要性を認知させる。また、アンケートで得られた住民の防災・防犯対策への出費や費やす時間、コミュニティの結びつきや家族構成に基づいて、自助・共助の促進策について検討することが可能となる。アンケート調査票の一例を表 3 に示す。

6. おわりに
本研究ではこれまでに家庭と地域におけるリスクを抽出・整理し、リスクファイナンスに着目して家庭の自然災害に対する不安感を分析した。また、岐阜市の地域防災コミュニティ計画の特色を整理し、自助・共助の実践のためのリスクコミュニケーションの必要性を示した。今後は、家庭および地域のリスクマネジメントシステムについて検討する。

【参考文献】

- 1) 例えば防災白書、犯罪白書、内閣府 HP、警察庁 HP など
- 2) 高木朗義、天王嘉乃：地域住民の洪水リスク認知度に関する現状評価と向上策の検討、河川技術論文集、第 12 巻、pp.170-174,2006.